

令和4年度 文学部 学校推薦型選抜
和食文化学科 小論文 出題意図・解答例

●大問1

【出題意図】

高等学校までの学習の成果を活かして、和食文化学に取り組む姿勢を探るため、現代社会で感心が高い「共食」とその反対の「個食/孤食」を取り上げました。例文を読み解き、現代人の生活が歴史的にどのように形成されてきたかを考え、それをどこまで具体的に捉えられるかを問う問題です。個々の知識の多寡を問うことなく、和食文化を探る上で必要となる豊かな想像力を、小論文を通じて見るための問題です。

●大問2

【出題意図】

「sushi」(寿司)は世界によく知られていますが、その成立の歴史的背景を知り、さらにより深く広く和食の歴史を学ぶために必要な理解力を探る問題です。これまで身に付けた知識を活かし、例文を論理的に理解できるかについて、五つの間で段階的に探ります。75～80年ほど昔のことながら、思い込みには囚われることなく、自らの力で考え、論じる姿勢を見ようという意図です。

【(和訳を求める小問の) 解答例】

問1 19世紀末に始まる近代の寿司の歴史において、作り方は売り方ほど変化しなかった。

問2 第二次世界大戦前の東京においては、寿司は本質的に屋台の食べ物であり、近代初期と同様に、屋台と呼ばれるフードスタンドで買い、立ちながら食べるものであった。寿司屋で座っている唯一の人物は料理人であった。寿司はスナックフードだったのである。第二次世界大戦後、寿司は標準的に10個提供される料理へと成長した。

問4 1907年に刊行された東京案内には、わずか六つの寿司屋が掲載されているのみである。この数は当時の西洋料理店の五分之一である。しかしながら、この案内は、高級な寿司屋のみ取り上げているようであり、東京のほとんどの人が屋台で寿司を買っていたという事実を無視している。